



2023年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年8月4日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 平和
 コード番号 6412 URL <https://www.heiwanet.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 嶺井 勝也
 問合せ先責任者 (役職名) 管理本部経営企画グループ (氏名) 小祝 隆 TEL 03-3839-0701
 ゼネラルマネージャー
 四半期報告書提出予定日 2022年8月5日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 有
 四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第1四半期の連結業績（2022年4月1日～2022年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第1四半期	34,731	8.4	7,855	79.9	7,827	80.7	5,355	103.4
2022年3月期第1四半期	32,051	98.2	4,367	—	4,331	—	2,633	—

(注) 包括利益 2023年3月期第1四半期 5,150百万円 (88.7%) 2022年3月期第1四半期 2,729百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第1四半期	54.30	—
2022年3月期第1四半期	26.70	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年3月期第1四半期	411,259	218,390	53.1	2,214.22
2022年3月期	417,066	217,186	52.1	2,202.00

(参考) 自己資本 2023年3月期第1四半期 218,390百万円 2022年3月期 217,186百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	40.00	—	40.00	80.00
2023年3月期	—	—	—	—	—
2023年3月期（予想）	—	40.00	—	40.00	80.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 2023年3月期の連結業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	138,000	13.5	20,700	102.2	20,000	91.1	13,300	506.4	134.85

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

当社グループは、業績管理を年次で行っていることから、通期連結業績予想のみを開示しております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 有

(注) 詳細は、添付資料P. 7「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P. 7「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2023年3月期1Q	99,809,060株	2022年3月期	99,809,060株
② 期末自己株式数	2023年3月期1Q	1,178,221株	2022年3月期	1,177,527株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2023年3月期1Q	98,631,299株	2022年3月期1Q	98,633,107株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。
2. 四半期決算補足説明資料は当決算短信開示後速やかに当社ホームページに掲載します。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書	6
第1四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(会計方針の変更)	7
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

遊技機業界におきましては、新型コロナウイルス感染症の影響などにより減少した来店客の戻りが未だ鈍く、稼働状況もコロナ禍前までの回復に至っておりません。そのため、パチンコホールにおいては経営状況が厳しく、店舗数は減少傾向が続いております。一方、市場回復への起爆剤として期待されているスマートパチスロは今年秋、スマートパチンコは来年春に市場へ導入される見込みですが、世界的な電子部品及び原材料不足の影響を受けることが予想され、その動向を注視していく必要があります。

ゴルフ業界におきましては、ゴルフが比較的感染リスクの低いレジャーとして認知されていることに加え、全国的に天候に恵まれたため、プレー需要は旺盛となり、来場者数は例年に比べ増加いたしました。また、顧客単価についてもプレー需要の高まりや、前年の緊急事態宣言の再発出やまん延防止等重点措置に伴い自粛していたアルコールの提供が可能となったことにより、大きく回復いたしました。

しかしながら、足元では変異株による感染が急拡大しており、今後の感染状況を注意深く見守る必要があります。

このような経営環境下、当第1四半期連結累計期間における業績は、売上高34,731百万円（前年同期比8.4%増）、営業利益7,855百万円（前年同期比79.9%増）、経常利益7,827百万円（前年同期比80.7%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益5,355百万円（前年同期比103.4%増）となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

(遊技機事業)

遊技機事業におきましては、パチンコ機は「麻雀物語4」、前期に発売した「ルパン三世 2000カラットの涙」等を販売し、販売台数17千台（前年同期比9百台増）、パチスロ機は業界初となる6.5号機「キャッツ・アイ」のほか、前期に発売した「主役は銭形3」等を販売し、販売台数6千台（前年同期比5百台減）となりました。

売上高につきましては、パチスロ機の販売台数が前年同期に比べ伸び悩み、パチンコ機の販売台数が増加したため、前年同期比で微増となりました。利益面につきましては、主にパチンコ機で販売台数増、売上原価の低減により売上総利益が増加したこと、並びに前期に実施した希望退職制度により人件費が減少したことにより、前年同期比で大幅に増加いたしました。

以上の結果、売上高9,785百万円（前年同期比7.3%増）、営業利益2,332百万円（前年同期比2,909.9%増）となりました。

(ゴルフ事業)

ゴルフ事業におきましては、お客様の満足度向上及び競合他社との差別化を図る施策として、PGMサポートプロと一緒にプレーしながらワンポイントレッスンを受けられるサービス「withGolf」の強化や夏シーズンのゴルフプレーにおける熱中症対策への選択肢として提供する送風機付ゴルフカート「Cool Cart」の導入準備を2022年8月より進めております。

売上高及び利益面につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響によるコンペ需要の減少により未だ顧客単価は、コロナ禍前の水準まで回復しておりませんが、前期に取得したゴルフ場の貢献や記録的に短い梅雨であったことにより引き続き需要が高く推移し、前年同期より増加いたしました。

以上の結果、売上高24,945百万円（前年同期比8.8%増）、営業利益6,252百万円（前年同期比30.3%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産の部)

総資産は、前連結会計年度末に比べ5,807百万円減少し、411,259百万円となりました。受取手形及び売掛金が2,437百万円、商品及び製品が1,206百万円増加する一方、現金及び預金が8,391百万円減少しております。

(負債の部)

負債は、前連結会計年度末に比べ7,011百万円減少し、192,868百万円となりました。流動負債のその他が2,977百万円、未払法人税等が2,130百万円、長期借入金（1年内返済予定の長期借入金を含む）が1,710百万円減少しております。

(純資産の部)

純資産は、親会社株主に帰属する四半期純利益の組み入れにより利益剰余金が5,355百万円増加する一方、剰余金の配当により利益剰余金が3,945百万円減少したこと等により、前連結会計年度末より1,203百万円増加し、218,390百万円となりました。

この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末の52.1%から53.1%となっております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期の連結業績予想につきましては、2022年5月13日に公表した連結業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	42,250	33,858
受取手形及び売掛金	7,561	9,998
電子記録債権	1,080	1,035
有価証券	24,801	24,149
商品及び製品	2,365	3,571
原材料及び貯蔵品	7,345	7,727
その他	7,696	7,607
貸倒引当金	△272	△276
流動資産合計	92,828	87,672
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	64,811	64,364
土地	215,307	215,427
その他(純額)	12,332	12,582
有形固定資産合計	292,451	292,374
無形固定資産		
のれん	5,748	5,660
その他	4,493	4,399
無形固定資産合計	10,242	10,059
投資その他の資産		
投資有価証券	8,238	7,934
その他	13,601	13,436
貸倒引当金	△296	△218
投資その他の資産合計	21,543	21,152
固定資産合計	324,238	323,586
資産合計	417,066	411,259
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,704	3,489
電子記録債務	7,224	7,587
1年内返済予定の長期借入金	29,543	29,293
未払法人税等	3,639	1,509
引当金	892	386
その他	22,252	19,275
流動負債合計	67,257	61,542
固定負債		
長期借入金	83,103	81,642
退職給付に係る負債	5,278	5,286
その他	44,240	44,396
固定負債合計	132,622	131,326
負債合計	199,880	192,868

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	16,755	16,755
資本剰余金	54,863	54,863
利益剰余金	146,922	148,332
自己株式	△1,346	△1,348
株主資本合計	217,194	218,603
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	41	△166
退職給付に係る調整累計額	△49	△45
その他の包括利益累計額合計	△7	△212
純資産合計	217,186	218,390
負債純資産合計	417,066	411,259

(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
売上高	32,051	34,731
売上原価	22,174	22,005
売上総利益	9,876	12,725
販売費及び一般管理費	5,509	4,869
営業利益	4,367	7,855
営業外収益		
受取利息	34	17
受取配当金	21	67
投資有価証券売却益	—	4
受取保険金	20	46
売電収入	46	44
固定資産売却益	0	112
その他	80	90
営業外収益合計	203	382
営業外費用		
支払利息	105	96
有価証券償還損	55	—
支払手数料	7	7
固定資産除却損	17	207
その他	54	98
営業外費用合計	239	410
経常利益	4,331	7,827
特別利益		
特別利益合計	—	—
特別損失		
特別損失合計	—	—
税金等調整前四半期純利益	4,331	7,827
法人税等	1,697	2,472
四半期純利益	2,633	5,355
(内訳)		
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,633	5,355
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	94	△208
退職給付に係る調整額	1	3
その他の包括利益合計	96	△204
四半期包括利益	2,729	5,150
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,729	5,150

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

当社及び一部の連結子会社の税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、税引前四半期純利益に一時差異等に該当しない重要な差異を加減したうえで、法定実効税率を乗じる方法によっております。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。これによる、四半期連結財務諸表への影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益及び包 括利益計算 書計上額 (注) 2
	遊技機事業	ゴルフ事業	計		
売上高					
一時点で移転される財	9,116	20,815	29,932	—	29,932
一定の期間にわたり移転される財	—	2,119	2,119	—	2,119
顧客との契約から生じる収益	9,116	22,934	32,051	—	32,051
外部顧客への売上高	9,116	22,934	32,051	—	32,051
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	0	0	△0	—
計	9,116	22,935	32,051	△0	32,051
セグメント利益	77	4,796	4,874	△507	4,367

(注) 1. セグメント利益の調整額△507百万円には、セグメント間取引消去2百万円及び配賦不能営業費用△509百万円が含まれております。配賦不能営業費用は、提出会社の管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益及び包 括利益計算 書計上額 (注) 2
	遊技機事業	ゴルフ事業	計		
売上高					
一時点で移転される財	9,785	22,780	32,565	—	32,565
一定の期間にわたり移転される財	—	2,165	2,165	—	2,165
顧客との契約から生じる収益	9,785	24,945	34,731	—	34,731
外部顧客への売上高	9,785	24,945	34,731	—	34,731
セグメント間の内部売上高又は振替高	0	0	1	△1	—
計	9,785	24,946	34,732	△1	34,731
セグメント利益	2,332	6,252	8,584	△728	7,855

(注) 1. セグメント利益の調整額△728百万円には、セグメント間取引消去1百万円及び配賦不能営業費用△730百万円が含まれております。配賦不能営業費用は、提出会社の管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。